

どの子にも分かる 授業づくり

どの子にも分かる授業づくり1

～学習環境～

「発達障害児指導事例集」（和歌山県教育委員会）を参考に、授業に集中して取り組めるように、視覚的な刺激を必要最小限にした教室環境整備に学校全体で取り組みました。また、既習内容を教室横に掲示し、一斉指導の中で確認したり、個別支援ではヒントにしたりして活用できるようにしました。例として「たしざんとひきざんのキーワード」「100までのかず」「わかりやすい文のかきかた」などが挙げられます。

黒板周囲の掲示物は必要最小限に



○教室の黒板の上は、学級目標・時間割・発表のルール（学年に応じて）、黒板横のスペースは1日の学習予定と給食当番表、歯磨きチェックカレンダーのみ掲示し、ロッカーの上には必要な物だけを置くようにして、整理整頓しました。

学習用具入れ
カバー



○児童の机の中が狭いので、椅子の背もたれに学習用具入れカバー（入学時に保護者に用意してもらう）をつけて、色鉛筆やのり、「さんすうセット」の用具などを出し入れしやすいように工夫しました。

○既習内容は、教室の横や後方に掲示しました。前時までの復習や支援の必要な児童の学習の手がかりとして、必要な時に活用できるように配慮しました。

既習内容の掲示物

たしざん (+)	ひきざん (-)
あわせて	のこりは
ぜんぶで	かえると
みんなで	たべると
ふえると	のこりは
くると	つかうと
いれると	ちがいは
のると	おりると

たしざんとひきざんの
キーワード

100までのかず

ひゃく 100
2 6
十のくらい 一のくらい
26(にじゅうろく)
10か10こ
99より大きい

見つけたカードを見ながら、
わかりやすい文をかきましよう。
一つの文に、一つのことをかく。
は「が」をつかって文をかく。
です「ます」でおわる。
文のおわりには、まるをつける。

分かりやすい文の
かきかた

取組の効果

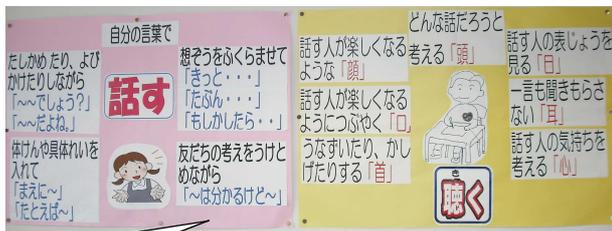
児童全員の顔の絵や写真などを黒板上ににぎやかに掲示していた以前と比べ、どこを見ればよいのかが分かりやすくなり、教師が指示した黒板の一点を集中して、学習に取り組むことができるようになりました。また、学習用具カバーを使用することで、整理整頓がしやすくなりました。狭い机の中から用具を取り出したり、ロッカーに取りに行ったりするよりも、用具の出し入れが楽にスムーズにでき、時間も短縮して次の活動に入ることができるようになりました。

さらに、既習内容を教室横に掲示したことにより、前時までの学習内容の復習がしやすく、分かりやすくなり、学習の見通しをもつことにもつながりました。自力解決が難しく、最初からあきらめてしまいがちだった児童が、ヒントとなるキーワードや既習内容の掲示物を個別支援の際に活用することによって、自分なりに取り組んでみようとする姿勢も見られるようになりました。

どの子にも分かる授業づくり2～学習規律の定着～

元気で活発な子どもが多く、集団で活動することを楽しめる学級ですが、落ち着いて話を聞くことが苦手だったり、調子に乗って度が過ぎてしまったりする子どもが数名います。また、困っている友だちに対して声をかけたり手助けしたりするなど、思いやる気持ちが育ってきていますが、相手の立場や気持ちを理解できていないために、逆にトラブルになってしまうことがあります。学習態度、話し方や聞き方などについては、学級のルールをどの子にもわかるように明示し、学習規律の徹底を図ることで、穏やかに落ち着いて学習できる学級づくりを行いました。

- 「勉強のきまり」や「聞く・話すの学習ルール」を教室に掲示するとともに、必要な時に確認し合うようにしました。



聞く・話すの学習ルール

勉強のきまり

勉強のきまり

チャインがなったら

- ・遊びをやめ、ローカを走らず教室にもどる。(教室にいる人は、すぐ席につく。)
- ・机の上に、本・ノート・筆記用具を使うように広げておく。
- ・係が前に出て、勉強を始める。

勉強中は

- ・よい姿勢で座る。
- ・静かに手をあげ、あたったら「はい」と返事をして立つ。
- ・『声のものさし』を考えて話す。
- ・聞き手の方を向いて話す。
- ・話し手の方を向いて聞く。(一部省略)

- 「発表のルール」(話型)や授業の中で学習した言葉や文型を具体的な使用例とともに教室に掲示することで、活用できるようにしました。



発表のルール

<ポイント>

- 具体的な指示(「鉛筆を置いて 前を見ましょう」等)を出して、『今は何をすべきか』を明確にするとともに、できている子をほめたり、できるようになったことを認めたりすることで、自尊感情^{*2}を高めていけるようにしました。また、個々を評価するだけでなく、学級全体をほめることで、学級の雰囲気作りを心がけました。
- 話し合う折には、友だち(相手)の気持ちを読み取りにくい子もいることから、それぞれの立場での気持ちを一緒に考えるようにしました。そして、普段、言葉に出てこない部分もはっきり言葉で説明(言語化)するように心がけました。
- 発表の苦手な子には、掲示している話型を参考にするように声かけをし、どう言えばいいかわかるようにしました。

取組の効果

授業で学習した言葉を普段から使いやすいように掲示するといった視覚的なヒントがあるだけでなく、それらを実際に教室で活用できた実感やそれを認めてもらった経験が、子どもたちの自信や力になり、どの子にもわかりやすい学習規律が、定着してきました。「聞く・話すの学習ルール」「発表のルール」を明確にすることで、『何をがんばればいいのか』『どんなふうに発表すればいいのか』が具体的にわかり、できたことを認めあえるようになってきています。また、その雰囲気の中で、今まで発表できなかった子が手を挙げたり前に出て発表しようとしたりする姿が見られるようになり、やってみようとする意欲にもつながってきました。

どの子にも分かる授業づくり3 ～授業構成の工夫1～

学級の中には、自分の考えをもっていてもなかなか全体の場では発表できない子どもがいます。支援の必要な子も含めて、学級の全員が積極的に授業に参加し、自信をもって発表できるように授業の構成を工夫しました。

○全体を見通して授業に臨む

ひとつの単元を学習するとき、あらかじめ単元全体の学習の大まかな流れをつかませておきます。このことにより今日の授業は、全体の中のどの部分なのかが分かり、見通しをもって学習に参加できることとなります。

○一時間の授業に型を作る

45分の授業の中に、ある一定の型を作っておくことで、子どもたちが活動しやすくなります。

- (例) ①課題を知る
 ②一人で考える(考えを書く)
 ③ペアや小グループで考える(書き足す)
 ④全体で考える(考えをまとめる)

また、ペアや小グループでの話し合いを入れることで、全体の場で発言することが難しい子も発言しやすくなります。

○発言しやすい場をつくる

ペアやグループでの話し合いのほかにも、授業の中に発言しやすい場をつくります。

- ・手を挙げるのが恥ずかしい子がいるとき

簡単な問いをくり返し出して発表しやすい場面をつくる。

発表したら、しっかりほめることで児童は発表に対して自信をもちます。

いろいろな答えが出そうな発問をする。

発言したらすべて否定しないで認めることで児童は安心して発表します。

- ・答え方がわからない子がいるとき
 発問を具体的にする。
 発問に、答えられる選択肢を入れる。

これは誰が言った言葉でしょう
 ↓
 これは「A」「B」「C」の誰が言った言葉でしょう。

あいの行列学習計画

- 一 新出漢字の学習
全文を読んで、かんそつを書く。
- 二 段落から「問い」の文を見つけ
その「答え」を見つけて学習の仕方が分かる。
- 三 第二、第三段落から
ウィルソンがどんな方法でしらべ、分かったことを読み取る。
- 四 第四、第五段落から
二つ目の実験やかんさつづけのけつを読み取る。
- 五 第六、第七、第八段落から
研究をして分かったことを読み取る。
- 六 第九、第十段落から
あいの行列ができるわけを読み取る。
- 七 段落ごとの中心になる部分を見つけ、ノートにまとめる。

取組の効果

(例) ①～④のように授業を構成することにより、自分の考えを書くという活動などで、子どもたちが自信をもって発表できるようになりました。

また、多様な答えが出る発問をし、その答えを認めることで、子どもたちは安心して全体の中でいろいろなことが言えるようになりました。

どの子にも分かる授業づくり4 ～授業構成の工夫2～

学級の子もたちの中には、集中して取り組んだり落ち着いて考えたりすることが苦手であるとともに、書くことを嫌がる子がいます。そこで書くことへの抵抗を減らし、題材に対して積極的に取り組むとともに、自信をもって書けるように授業の構成を工夫しました。

○ワークシートの活用

一つの単元を通して、ワークシートを活用する授業を構成しました。

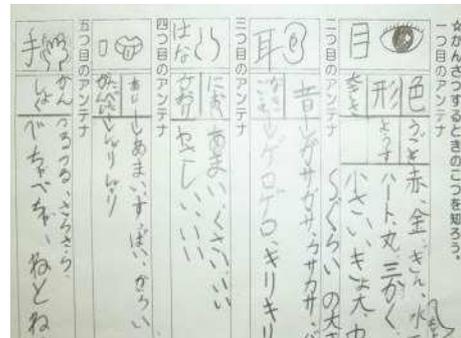
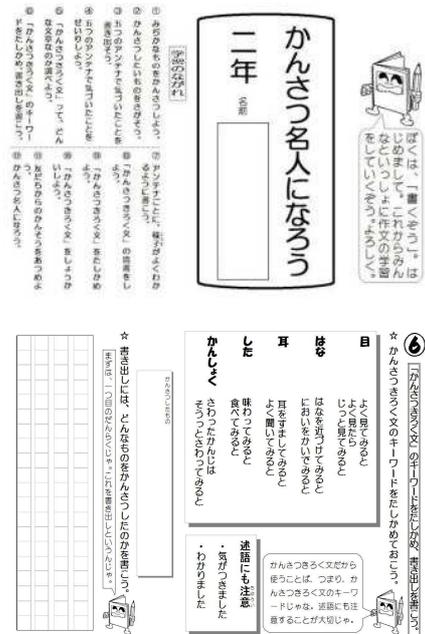
- ・「学習案内」としての役割を併せ持った補助教材として活用する。
「学習のながれ」を示し、学習全体の見通しをもつ。
- ・指導事項の各段階に沿ったものを用意し、ステップステップで一つ一つの手順を積み重ねる。
→「かんさつきろく文のキーワードをたしかめ、書き出しを書こう」
- ・五感を働かせた視点を設定する。
→観察するときの「五つのアンテナ」
(目で、耳で、鼻で、舌で、手で)
- ・例文を活用する。

○題材への興味の持たせ方の工夫

生活科や総合的な学習の時間等において調理実習、町探検など多くの実体験を通して、学ぶ機会を設定します。また「好きな遊び」や「好きな物かんさつ」等を設定し、題材とふれ合い遊ぶ時間を取り入れたりします。その上で体験したことを紹介したり、お礼の手紙を書いたりという目的をもって書く活動を行います。

○デジタルカメラの映像、教材提示装置の活用

視覚面から興味をもたせ、書こうという意欲を高めます。



取組の効果

○「ワークシート」による学習

- ・学習全体の見通しがもてるので、子ども同士の学び合いの場面がありました。
- ・シートに書く量を調節できるようにすることで、どの子も自分なりに「書けた」という達成感を味わうことができ、自信や意欲をもつことができました。また、学習過程を重視することができるため、つまづいているところや分からないところを見つけやすく、よく書けている箇所を評価しやすくなり、個別指導にも効果的でした。
- ・子ども自身も学習を振り返り、見直すことができるようになりました。
- ・「五つのアンテナ」は、観察するときのこつを知ることができ、意識付けに効果的でした。

○例文を提示することは文章構成や書き方の理解に役立ち、子どもたちの書くことへの抵抗感を減らすことができました。

○体験したことや題材と触れ合った様子がわかるような写真を添付することで、その時の様子を思い出しやすく、書くときの手がかりとなりました。

どの子にも分かる授業づくり5 ～教材・教具の工夫1～

板書をノートに書き写す時間に個人差が大きい学級（書字に困難のあるLD、集中の持続が困難なADHD等の発達障害のある子どもが在籍する場合もある）において、各教科で可能な範囲、1時間に1枚程度のワークシートを作成し、活用しました。

- 書字に困難のある子は、板書を書き写すのに精一杯で、教師の説明を聞いたり内容を理解したりする余裕がなく、学習面での遅れが生じやすくなります。ワークシートに書く量を調節し、書くことへの抵抗感を少なくするとともに、1時間の中での大事なポイントが分かりやすいようにしました。また、記入しやすいように空欄を作ったり、選択肢を用意したりしました。
- 目に見えないことをイメージするのが苦手な子は、授業の流れに見通しをもてないため、意欲的・主体的に授業に参加するのが難しくなります。1時間分のワークシートを見ることによって、その時間の課題やゴールを常に確認できるようにしました。
- 書き込んだワークシートはファイルに綴じたり、ノートに貼り付けたりすることで、これまで何をどのように学んだか、学習の跡を振り返ることができるようにしました。

ワークシートの例 ＜国語・新聞発表会をしよう＞

新聞発表会をしよう

○友達にほめてもらいましたか。（どちらかに○）

○新聞発表会の感想を書こう。（ほめてもらったことなど）

○友達の意見でいいところや気に入った記事がありましたか。（どれかに○）

○友達のいいところを見つけてみましたか。（どれかに○）

○友達にほめてもらいましたか。（どちらかに○）

○新聞発表会の感想を書こう。（ほめてもらったことなど）

考え方の流れを示す

＜算数・比の値＞

①砂糖を100gとすると、小麦粉は何gあるでしょう。

②等しい比を使って求める方法

$$2 : 5 = 100 : \square$$

(式) $100 \div 2 = ()$

$5 \times () = ()$

③比1あたりの重さを求める方法

④比の値を利用する方法

比の値 $2 \div 5 = ()$

$100 \div () = ()$

活動の流れを示す

取組の効果

- 書く速さの差が大きい学級なので、ワークシートを活用することによって書く負担が軽減され、どの子も「書き込もう」「授業に参加しよう」と意欲をもって前向きに学習に取り組めるようになってきています。
- 授業の流れに沿って1時間の課題が明確になることによって、授業への集中が持続できる子どもが多くなってきました。また、学習の整理ができるようになり、学習の定着がより深まってきました。
- 学習内容を構造化する（整理して組み立てる）ための支援となり、子どもがノートの書き方を学ぶ機会にもなっています。
- 自分の考えや意見をワークシートにまとめる過程を通して、理解を深め、また表現する力を伸ばすことにつながっています。
- 教師側にとって、ワークシートを作成する作業を通して教材研究が深まり、分かりやすい授業を考えることができました。

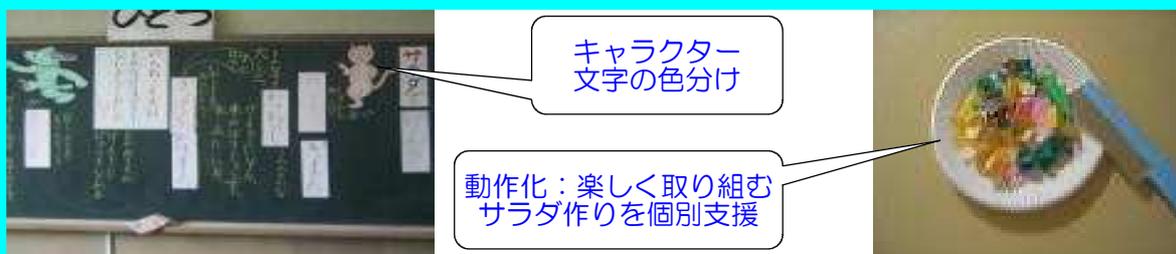
どの子にも分かる授業作り7 ～教科（国語科）での取組～

小学校1年生の国語科において、以下の取組を行いました。

- ・読むことについて、言葉のリズムを楽しんだり、登場人物の行動を順番に読み取ったり、その様子を思い浮かべながら動作化する学習を行いました。
- ・書くことについて、文字指導の定着のため、既習の言葉を黒板に残す、繰り返し使う、聞き取って書くなどの工夫を行いました。
- ・聞くことについて、背筋を伸ばして座り、話している人の方を見ることを意識させました。

※話すことについては、友達の意見を聞き、理解して自分の意見を述べることなど苦手意識の強い子どもが多くいます。

- 「教材選定の工夫」：共感しやすい主人公や動物が登場しユニークなサラダ作りのアドバイスをする展開が、子どもたちの意欲や関心を継続することにつながると考え、「サラダでげんき」という単元を取り上げました。各場面で「登場する様子」「サラダに入れるおすすめの物」「元気になる効果」と同じパターンでお話が展開し、子どもたちが楽しみながら読みとれる構成になっています。
- 「活動の工夫」：動物や人物を動作化し、言葉を正確に読みとって表現できるような活動を取り入れました。吹き出しなどを使って、登場人物の気持ちを想像して書く活動を取り入れました。
- 「指導の工夫」：主語と述語の関係や表現のオノマトペやつなぎ言葉など、文の基本的な構造を意識させるようにしました。「繰り返しの構造に着目して読む力」を育てるために、場面を区切って捉えさせ、主人公と動物達の関わりを明確にするようにしました。
- 「発表の工夫」：意見を発表する場ではハンドサインのルールを決め、意見を繋げられるようにしました。
- 「個への配慮」：読みを苦手とする子どもには支援ツール（スリットカード^{*3}）を使用しています。挿絵を活用し、本文とのつながりを意識させながら、物語を楽しめるようにしました。楽しい雰囲気を取り組めるよう歌を導入しました。



取組の効果

- ・友だちの意見を聞いて、自分の意見を付け足して発表ができるようになってきました。意思表示も明確になってきました。
- ・お話が繰り返しのある展開だったことにより、学習の展開もパターン化できました。このことは着目点を明確にし、子どもたちの興味や関心を持続させることになりました。
- ・動作化を思い切りさせるためには、授業の中で静と動のめりはりなどの規律をつけておくことが大切です。学習のルールが明確であったので、「話す」「書く」「聞く」「表現する」場面の切り替えに子どもたちが素早く反応できるようになりました。
- ・チャートや板書では、気持ちや行動、様子を色々な色分けして書いたことで、読みや書きが苦手な子がよく理解できました。色の使い方は、過剰な刺激になる場合もあるので、配慮が必要です。チャートの内容を整理しておくとう分かりやすくなります。
- ・板書とワークシートを同じ形にすることも大切な支援の一つです。
- ・教師自身が授業を楽しむことも大切です。また子どもの学習意欲を高めるためには、取組の目的や内容を伝えていくことが重要であることが分かりました。